

平成 21 年 6 月 3 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：平成 17～平成 20 年度
 課題番号：17330048
 研究課題名（和文） 契約の実証分析
 研究課題名（英文） Empirical Analysis of Contracts

研究代表者

岡崎哲二 (OKAZAKI TETSUJI)
 東京大学・大学院経済学研究科・教授
 研究者番号：90183029

研究成果の概要：

本プロジェクトでは、現代の開発途上国および戦前の日本をフィールドとして、土地・金融・労働市場におけるさまざまな契約形態の含意を理論的・実証的に分析した。戦前日本では、減免付定額契約がマーシャルの非効率性を解決しつつ土地市場の機能に寄与したこと、現代のアフリカでも土地市場が機能しつつあることが明らかになった。また現代のアフリカでは共同体関係が小企業の信用へのアクセスを支えていること、現代の東南アジアで現物賃金が労働者家計のリスクを低減する役割を果たしていることなどが明らかになった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	4,000,000	0	4,000,000
2006 年度	3,700,000	0	3,700,000
2007 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2008 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
総計	15,100,000	2,220,000	17,320,000

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：応用経済学

キーワード：契約、契約理論、小作制度、土地市場、下請制度

1. 研究開始当初の背景

本研究の動機は、近年における契約理論の発展を踏まえ、契約理論、経済史、開発経済学の各分野の研究関心、研究対象、分析方法を総合することを通じて、契約に関する理論的枠組みと、過去・現在を通じて現実に存在してきたさまざまな契約形態に関する理解を深化させ、さらにこれを応用して発展途上国

に対する政策上のインプリケーションを引き出すことである。

2. 研究の目的

具体的には課題は次の3つを目的とする。第一に、歴史資料の調査と現代の途上国のフィールド調査に基づき、特に小作、土地賃借(質地請戻し慣行)、金融(村借)、さらに村請制

という課税制度などについて、契約理論の枠組を用いた事例研究を行う。この作業を通して、各契約形態の合理性、効率性、社会経済的背景との関連について明らかにする。第二に、事例研究のなかで既存の契約理論では十分に捉えきれない部分を抽出し、そこから新たな視点に基づいた理論モデルを構築して、契約理論へのフィードバックを行う。第三に、契約理論と事例研究の相互のフィードバックを通じた成果から、現代の途上国への政策的インプリケーションを引き出す。

3．研究の方法

研究にあたっては、経済理論研究における厳密な演繹的推論、経済史研究における綿密な資料収集・検討と帰納的推論、開発経済学におけるフィールド調査とミクロ計量分析、の各方法が総合的に用いられる。

4．研究成果

本プロジェクトではまず、土地市場、特に地主小作契約に基づく農地の貸借市場に関する膨大な文献をレビューし、その効率性と所得分配への影響を評価した。分益小作契約のもとでは、定額小作契約の場合と異なり、生産物を地主と小作人の間でシェアするために小作人の労働意欲がそがれ、生産性が低下するというマーシャルの非効率がよく知られているが、それを支持する実証研究はこれまでのところ必ずしも多くない。

一方、戦前期の日本では、典型的な分益小作契約・定額小作契約ではなく、減免特約付定額小作契約、すなわち平時には定額の小作料が支払われるが、極度の不作時には小作料が減免されるという契約形態が一般的であった。本研究では、小作契約に関する理論的研究および開発経済学分野における実証研究を踏まえ、減免付定額小作契約の意味を理論的・実証的に考察した。その結果、この契

約形態はリスクシェアリングとインセンティブのトレードオフを分益小作契約・定額小作契約のいずれよりも効率的に解決できる一方、減免の発動に関する取引費用を伴うことが明らかになった。さらに、村・郡別データを用いて、減免付定額小作契約の選択に取引費用が影響を与えたことを検証した。あわせて戦前の日本ではマーシャルの非効率性が存在したことを確認したうえで、減免付定額契約がそれを避けることを可能にしたことを明らかにした。

小作契約では通常、土地が豊富な家計から不足する家計への土地の貸付があり、それは所得分配と生産効率の向上の双方に寄与するものである。上記の減免付定額契約に支えられた戦前日本の地主制は、その意味で日本の経済発展に寄与したといえる。本研究では、現代の世界でもっとも貧困問題が深刻なアフリカについて、土地市場の機能を分析した。その結果、近年アフリカでも農地市場が活発化しつつあり、アジアほど効率的ではないが、傾向的にはアジアと同じように大農から小農に農地を再配分するように機能しており、貧困削減や資源配分の効率性の向上に寄与していることが明らかになった。

本プロジェクトでは土地市場だけでなく、金融市場および労働市場におけるさまざまな契約形態とその含意を分析した。発展途上国では、金融市場の未発達为非農業部門の発展の重大な制約となりうる。その点に着目し、ケニアの首都ナイロビの縫製業に関して、マイクロ・データに基づく実証研究を行った。その結果、大多数の小企業が信用制約を受けていること、信用制約が企業の収益性と雇用成長を妨げていること、共同体メカニズムを利用する在来的金融である ROSCA（回転型貯蓄信用講）が様々な資金源のうちで小企業

中心の産業発展に最も貢献していることが明らかになった。この結果は、産業発展の比較的初期の段階において、共同体的なメカニズムが信用市場取引を補完するという非常に重要な役割を果たすことを示しており、共同体と市場とが相互補完的な関係になりうるということを実証的に示したものである。

労働市場については、途上国の経済発展における雇用形態の多様性とその機能について、現物賃金が果たす家計の食糧確保という役割に焦点を当てて分析した。まず、経済発展の初期段階において現物賃金が重要であることを様々な資料や統計データから示した上で、既存研究が現物賃金をどのように理論的に理解してきたかを展望した。先行研究で十分議論されていない視点として、食糧市場が薄く、主食価格が変動するリスクに直面する労働者家計に対して、現物賃金が食糧面での安全保障を確保する効果を持つという理論モデルを提示し、そこから家計の食糧需要が硬直的である場合に現物賃金を伴う雇用形態への労働供給が増えることを導出した。ミャンマー農村部のデータを用いたミクロ計量分析結果は、この理論的關係と整合的であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

Kozo Kiyota and Tetsuji Okazaki, "Industrial Policy Cuts Two Ways: Evidence from Cotton Spinning Firms in Japan, 1956-1964," forthcoming in *Journal of Law and Economics* (査読有り)

Tetsuji Okazaki, "Micro-aspects of monetary policy: Lender of Last Resort and selection of banks in Prewar Japan," *Explorations in Economic History*, 44: 657-679, 2007 (査読有り)

Tetsuji Okazaki and Michiru Sawada, "Effects of a Bank Consolidation Promotion

Policy: Evaluating the 1927 Bank Law in Japan" *Financial History Review*, 14, 29-61, 2007 (査読有り)

Tetsuji Okazaki, Michiru Sawada and Ke Wang, "Fall of 'Organ Bank' Relationship over Bank Failure and Consolidation Wave: Experience in Prewar Japan," *Corporate Ownership and Control* 4(4): 20-29, 2007 (査読有り)

Tetsuji Okazaki, "Voice' and 'Exit' in Japanese Firms during the Second World War: Sanpo Revisited, *The Economic History Review*, 59(2) : 374-395, 2006 (査読有り)

Jonna P. Estudillo, Yasuyuki Sawada, and Keiji Otsuka, "The Changing Determinants of Schooling Investments and Overseas Migration: Evidence from Villages in the Philippines, 1985-1989 and 2000-2004," *Journal of Development Studies* 45(3), 391-411, 2009 (査読有り)

Jonna P. Estudillo, Yasuyuki Sawada, and Keiji Otsuka, "Changes in Household Endowments and Their Returns: Income Dynamics and Poverty Reduction in the Philippine Villages, 1985-2004," *Review of Development Economics* 12 (4), 877-890, 2008 (査読有り)

Jeong-Joon Lee and Yasuyuki Sawada, "The Degree of Precautionary Saving: Re-examination," *Economics Letters* 96 (2), 196-201, August 2007 (査読有り).

Takashi Kurosaki, "Crop Choice, Farm Income, and Political Control in Myanmar," *Journal of the Asia Pacific Economy* 13(2) : 180-203, 2008 (査読有り).

Takahiro Ito and Takashi Kurosaki, "Weather Risk, Wages in Kind, and the Off-Farm Labor Supply of Agricultural Households in a Developing Country,"

forthcoming in *American Journal of Agricultural Economics* (査読有り).

Takashi Kurosaki and Humayun Khan, "Human Capital, Productivity, and Stratification in Rural Pakistan," *Review of Development Economics*, 10(1) February 2006: 116-134 (査読有り)

Hideshi Ito, Tasuya Kikutani and Osamu Hayashida, "Complementarities among Authority, Accountability, and Monitoring: Evidence from Japanese Business Groups," *Journal of the Japanese and International Economies* 22: 207-228, 2008 (査読有り)

Hitoshi Matsushima, "Behavioral Aspects of Implementation Theory," *Economics Letters* 100, 161-164, 2008 (査読有り)

Hitoshi Matsushima, "Detail-Free Mechanism Design in Twice Iterative Dominance: Large Economies," *Journal of Economic Theory* 141 (1), 134-151, 2008 (査読有り)

Hitoshi Matsuhima, "Role of Honesty in Full Implementation," *Journal of Economic Theory* 139 (1), 353-359, March 2008 (査読有り)

[学会発表](計1件)

Yutaka Arimoto, Tetsuji Okazaki and Masaki Nakabayashi, "Agrarian Land Tenancy in Prewar Japan: Contract Choice and Implications on Productivity" at Symposium in commemoration of the Executive Committee Meeting of the International Economic history Association, 2008

[図書](計5件)

Tetsuji Okazaki ed. *Production*

Organizations in Japanese Economic Development, London: Routledge

Stein T. Holden, Keijiro Otsuka, and Frank Place, eds., *The Emergence of Land Markets in Africa: Assessing the Impacts on Poverty, Equity, and Efficiency*. Washington, DC: Resources for the Future, 2009.

橋野知子 『経済発展と産地・市場・制度 - 明治期絹織物業の進化とダイナミズム - 』、ミネルヴァ書房、2007年

澤田康幸・園部哲史編 『市場と経済発展 - 途上国における貧困削減に向けて』東洋経済新報社、2006年

伊藤秀史・沼上幹・田中一弘・軽部大(編) 『現代の経営理論』有斐閣、2008年

加賀見彰 『国際社会における私的利害関係の規律と紛争解決 - 国際私法の経済分析：序説 - 』三菱経済研究所、2009

[産業財産権]
出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡崎哲二 (OKAZAKI TETSUJI)

東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：90183029

(2) 研究分担者

松島斉 (MATSUSHIMA HITOSHI)

東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：00209544

澤田康幸 (SAWADA YASUYUKI)

東京大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：40322078

中村尚史 (NAKAMURA NAOFUMI)

東京大学社会科学研究所・准教授
研究者番号：60262086
中林真幸 (NAKABAYASHI MASAKI)
東京大学・社会科学研究所・准教授
研究者番号：60302676
黒崎卓 (KUROSAKI TAKASHI)
一橋大学・経済研究所・教授
伊藤秀史 (ITO HIDESHI)
一橋大学・大学院商学研究科・教授
研究者番号：80203165
橋野知子 (HASHINO TOMOKO)
神戸大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：90293159
大塚啓二郎 (OTSUKA KEIJIRO)
国際開発高等研究機構・プロフェッソリアフ
ェロー
研究者番号：50145653
加賀見彰 (KAGAMI AKIRA)
明海大学・経済学部・専任講師
研究者番号：50316684

(3)連携研究者